

年の瀬が暖冬にて新年を迎える支度も楽でした。二十八年は輝ける、希望の持てる年の幕開けとなり、丙申年を安泰に過ごさせて頂けます様、御祈念申し上げます。

昨年暮れ十二月二十四日に福井地方裁判所に於いて原発再稼働OKの判決がございました。過去の未だ終結していない原発事故を踏まえても、尚、安心安全の確保が出来ていと言う事でしょう。裁判官も自己の生命を掛けた判決をされた事と思えます。「瞬にして何万人もの生命を奪ってしまう大震災が再び訪れる可能性は十分あります。怖さを体験した人々は再稼働に反対でしょう。トラブルが発生すれば大きなリスクを伴います。以前の災害の時は想定外と言ひ逃れをしました。二度とこの言葉は使えません。人命尊重の立場から言えば稼働せずに辛抱した方が良いでしょう。私はまず推進派の国会議員の先生方は全員仮設住宅で生活をして現実の味わいを深めることから始めて頂きたい。身を以って知るとはそう言うことです。未経験の者が頭だけで進めるのは如何なるものでしょうか、やめて頂きたいものです。体験された方の辛苦は本人にしか分かりません。文殊・普賢という菩薩の名前をつけた原発もありますが面映ゆい限りです。それに反し、人々の悩みを解消し救いの手を差し伸べるのが佛様の仕事なのです。司法に判断を仰ぐような出来事は佛の意に合わないという事です。偽りという言葉は人の為と書くのにイツワリとはなんぞや、となります。お正月から偽りとは、とお思いでしょうが我々は口先だけの詭弁になりやすく、誠人の為実践する事が少なく結果的に偽りに成ってしまうと言う残念な言葉です。東洋ゴムが施工した耐震性の問題や、最近では基礎の杭が短かったり、橋の強化を保つ部品に強度が足りなかったりと、会社の経営であれ、全て人間が為した偽りなのです。佛の世界では味わえない言葉であり、ありえないことです。幸せを求める人は仕事に合わせる仕合せでなくてはいけません。当に今年には物事が偽りに成らないように五官に細心の注意を払い共に、相互扶助、助け合いながら生活をエンジョイ出来れば佛の意に合うでしょう。

盤珪禪師は親から賜るのは仏心一つであると言われた。禪師の法語に「この体は一度拵へたる故に消滅がござれども、心はもとよりの仏心でござるによって、消滅はござらぬ。愛を不生不滅と申す、・・・釈迦の涅槃と申すも元来、涅槃は不生、槃は不滅と申して、不生のことでござる」と、さらに我欲が身の最負を拵へ、最負に迷い、悪に染まる。故に、身に嗔り腹立、身に惜しや欲しやの最負の執着の念から離れたところに仏心があると云って見えると思えます。

当山は善入院と言ひ、善心、善行の方々が集う場所と思いきや、そうでは無いと思っています。参拝も現実には娑婆の世界ですので苦界からの脱却を図るべく祈願であり、参拝される人々が佛様に一生懸命お祈りすれば誰彼の区別なく自然に望みが叶えられる事でしょう。初詣、年の初めの初心を忘れず、緊張感をもって責任を逃避せず自己の責任に応じて処理し、良き一年に成ります様に

平成二十八年一月一日

善壽界善入院油掛地藏尊